

『アジア経済』執筆要領

(2019年12月19日改訂／2026年6月1日最終追補)

I 全般的留意点

1. 文章は、原則として常用漢字、現代かなづかい、アラビア数字を使用し、平明な表現を用いる。用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。
2. 節はⅠ、Ⅱ…、項は1、2…とする。さらに下位区分を用いる場合は(1)、(2)…、次いで①、②…とする。文中で列挙する場合は、(1)、(2)…もしくは①、②…を用いる。
3. 外国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合（東アジア諸国）を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称（地名、人名、機関名、会社名など）は、最初に限りその原語（ただし、ローマ字を通常使用しない言語の場合には、そのローマ字化したもの）をカッコ内に付記する。ローマナイゼーションの方式は必ずしも統一しない。以後の記述で略号を用いる場合は、原語付記に際して記載する。

例) タンダン (Purushototamdas Tandan) は…、タンダンの主張によれば…
アジア太平洋経済社会委員会 (Economic and Social Commission for Asia and the Pacific: ESCAP) が…、ESCAPは…
4. 外来語、外国の度量衡および貨幣の単位は、カタカナ書きにする（例：メートル、トン、ドル、パーセント、ヘクタール）。ただし、図表では一般的な単位は記号（m, g, tなど）を用いる。中国、韓国などの歴史的な度量衡・貨幣の単位については、漢字書きも可。
5. 数字は原則としてアラビア数字を使う。ただし、本文中では桁区切りのカンマを用いず、万以上の数字には万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、数十年などとする。

例) 23億500万円 1万2000人 第2次5カ年計画 表1 0～5歳
6. 年は西暦を使用する。特別の暦法による暦を使用する場合には西暦年を〔 〕で付記する。年度の表示には半角スラッシュを用いる。継続年次の場合は「～」を用いる。生年や政権期間を表す場合は半角ハイフンを用いてもよい。

例) 1970/71会計年度 1970～75年（1970～1975年も可）
例) ジョン・スミス政権（1945-2001）は
7. 数式は行間を十分あける。大文字・小文字、数字・アルファベット、イタリック体・立体の違いを明確にする。

注は通し番号を付し、原稿末にまとめる。本文中の該当するところを明示すること。
例) 指定大商社^(注5)は、…である^(注6)
8. 著（編）者名と刊行年の表記は出来るだけ本文中で行い、注には回さないこと。

例) ×（本文）…とスミスは説明している^(注1)。（注1）Smith [1990, 20-21] .
（本文）…とスミスは説明している [Smith 1990, 20-21] 。

II 本文および注での文献表記

1. 地の文で文献に言及するときは、「著（編）者姓 [刊行年]」の形式で示す。文中にかっこ書きで示すときは、「 [著（編）者姓 刊行年]」の形式で示す。ページ数を示す場

合は、刊行年のあとにカンマと半角スペースを打ってから記載する（刊行年が不明の場合は「n.d.」）。連続するページ数を示す場合は半角ハイフンを使う。文献内の複数箇所を示す場合はカンマで区切って列挙する。

例) 今西 [1974] は…, …という説もある [McAndrew 1989]。

今西 [1974, 26] は…, 今西 [1974, 26-31] は…

…という説もある [McAndrew 1989, 14, 18-20]。

2. 編者、監修などの場合でも、姓の後に「編」、「監修」、「ed.」、「comp.」等を付けない（同一著者・同一発行年の別の文献と見分けがつかない場合は付けてもよい）。
3. 複数著（編）者の場合は、3人までは全員の名前を出す。4人以上の場合は最初の1人のみを明示し、2人目以降は「ほか」、「et al.」と略記する。なお、「&」は使わない。

例) 今西・鹿野 [1978] は…, Baumgartner and Kada [2003]

は… Smith, Wessen and Gunless [1988] などの研究が…

Zipursky et al. [1959] によれば…, …という [Zipursky et al. 1959]。

4. 同一著者の複数の文献を示す場合は、半角セミコロンと半角スペースを打ってから年数順に列挙する。ページ数を示すときは、半角カンマと半角スペースに続いて記す。

例) 今西 [1978; 1980] は…, …という説もある [McAndrew 1989; 1992; 1994]。

Garcia [1941, 45-49; 1944, 105] によれば…

5. 一つのかっこ内で著（編）者の異なる複数の文献を示す場合は、半角セミコロンと半角スペースを打ってから列挙する（順不同）。

例) …とされている [Smith 1988; McAndrew 1989, 202-211]。

6. 著（編）者名が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を表記する。機関名が長い場合には、略号、略称を用いてもよい。ただし文献リストでは正式名称が分かるようにしておくこと。

例) (本文) CEPAL [1994]

(文献リスト) CEPAL (Comisión Económica para América Latina y el Caribe) 1994. *El regionalismo abierto en América Latina y el Caribe.*

Santiago de Chile: CEPAL.

7. 2度目以後の引用の場合には、前掲書・前掲論文、同上書・同上論文、op. cit., Ibid. という言葉を使用しない。

III 文献リスト

1. 文献リストに挙げる文献は、本文・注・図表において言及・引用したものに限り、かつ、日本語文献と外国語文献に分ける。

日本語文献は著者姓名の50音順、外国語文献は著者姓のアルファベット順（姓、名の順に倒置する）に並べる。中国語、韓国語文献が多い場合には別途リストを作成し、それぞれ、ピンイン順、カナダラ順としてもよい。

共著の外国語文献では、最初の編著者名のみ姓名を倒置する。編著者名は省略せず全員を記し、最後の著者の前にandをおく。

同一著者の文献が複数ある場合は、単著、編著に関係なく、出版年を昇順に並べる。同一著者の文献が同一年に複数ある場合は、文献タイトルの50音順、アルファベット順に並べ、刊行年にa, b…と付記して区別する。

同じ著（編）者の文献が続くときは2度目以下は——（3倍ダッシュ）で表記する。な

お、著書の後に編著が続く場合は、——編，——ed.とする。ただし、別の著者や編者が新たに付け加わる場合には、最初の著（編）者名ももう一度出すこと。

例) Fontanelle, Eric C. 1944. *Preparing for the Postwar Period*. Columbus, Ohio: W. C. Cartwright and Daughters.

—— 1952. *What Really Happened When the War Ended*. Cleveland: Chagrin Valley Press.

Fontanelle, Eric C. and Valeria Mandible 1951. “Iron Despair: Postwar Bewilderment.” *World Spectator* (6) April.

2. 英・仏・独・スペイン・ポルトガル・イタリア・中国語以外の文献については、発行機関名、書名、論文名に日本語訳を角かっこにくくって付記する。

例) Pemerintah Daerah Propinsi Sumatera Barat [西スマトラ州政府]

1979. *Recana Pembangunan Lima Tahun Ketiga 1979/80-1983/84 II* [第3次開発5カ年計画1979/80-1983/84第II巻] , Padan.

3. 単行書

日本語文献は「著者名 出版年.『書名』出版社.」と記載する。シリーズ名と出版地は省略する。邦訳書は「著者名 出版年.『書名』翻訳者名, 出版社.」とする。原著情報を記す場合は、出版社に続いて丸かっこ内に記載する。原著情報の記載方法は、外国語文献の記載方法にしたがう。

例) 池田明史 1994. 『イスラエル国家の諸問題』アジア経済研究所.

ハイランド, G・ウィリアム 2005. 『冷戦後のアメリカ外交——クリントン外交は.なぜ破綻したのか——』堀本武功・塚田洋訳, 明石書店 (Hyland, G.

William 1999. *Clinton's World*. New York: Praeger) .

外国語文献は「著者名 出版年. 書名. 出版地: 出版社.」と記載し、書名はイタリックとする。邦訳情報を記す場合は、出版社につづいて丸かっこ内に記載する。邦訳情報の記載方法は、日本語文献の記載方法にしたがう。

例) Samuelson, P.A. 1964. *Economics: An Introductory Analysis*. 6th ed. New

York: McGraw-Hill (サムエルソン, P. A. 1966. 『経済学——入門的分析——』都留重人訳, 岩波書店) .

4. 単行書所収論文

日本語文献は「著者名 出版年.「論文名」編著者名『書名』出版社.」と記載する。外国語文献は「著者名 出版年.“論文名.” In 書名, ed. 編者名. 出版地: 出版社.」と記載し、書名はイタリックとする。

例) 中村政則 1994. 「軍配組合研究の現状と課題」中村政則・高村直助・小林英夫編『戦時華中の物資動員と軍票』多賀出版.

Chakravarty, S. and R. S. Eckaus 1964. “Choice Elements in International Planning.” In *Capital Formation and Economic Development*, ed. P. N. Rosenstein-Rodan. London: Allen & Unwin.

5. 雑誌論文・記事

日本語文献は「著者名 出版年.「論文名」『雑誌名』巻号(発行月) 掲載ページ.」と記載する。外国語文献は、「著者名 出版年.“論文名.” 雑誌名 巻号: 掲載ページ.」と記載し、雑誌名はイタリックとする。雑誌名冒頭の *The* は不要。

例) 小林篤史 2012. 「19世紀前半における東南アジア域内交易の成長——シンガポール・仲介商人の役割——」『社会経済史学』78(3): 56-57.

Lorentzen, Peter L. 2013. “Regularizing Rioting: Permitting Public Protest

in an Authoritarian Regime.” *Journal of Political Science* 8(2): 127-158.

巻号は「巻数(号数)」と表記する。号数表示だけの雑誌の場合は「(号数)」と表記する。発行月日・季節を記載する場合は、巻号のうしろに「発行月日・季節」もしくは「(発行月・季節)」の形式で挿入する。掲載ページは半角ハイフンを用い、「開始ページ-終了ページ」と表記する。

例) 福島真人 1988. 「内面と力——ジャワ神秘主義と伝統的政治モデル——」『民族学研究』52(4) (3月): 330-350.

Yared, Marc 1993. “Hafez le prudent, el-Assad le lion.” *Jeune Afrique* (1690) 27 mai: 66-73.

6. 新聞記事

日本語文献の署名記事は「執筆者名 出版年. 「記事名」 『新聞名』 刊行月日.」, 無署名記事は「『新聞名』 出版年. 「記事名」 刊行月日.」と記載する。

例) 原田和明 2000. 「IT革命で安定成長続く」『日本経済新聞』5月5日.

『日本経済新聞』1990. 「社説」9月1日.

外国語文献の署名記事は「執筆者名 出版年. “記事名.” 新聞名, 刊行月日.」, 無署名記事は、「新聞名 出版年. “記事名.” 刊行月日.」と記載する。新聞名はイタリックで記す。なお、同一タイトルの新聞が複数地で刊行されているなど、弁別が必要な場合には新聞名のあとに出版地を付記することができる。

例) Finnonian, Albert 1990. “The Iron Curtain Rises.” *Wilberton Journal*, 7 February. *Philadelphia Inquirer* 1990. “Editorial.” 30 July.

7. インタビュー、聞き取り調査

引用回数が少ない場合は注で「いつ、どこで、誰が、誰に」聞いたのか説明書きを入れ、リストに載せる必要はない。ただし頻繁に引用するものについてはリストに載せ、本文、注では聴取者ないし被聴取者名と聴取した年を記述する。

例) (本文) 田中 [1998]

(リスト) 田中一郎1998. 「1998年2月1日, ○○社広報室にて行った筆者(田中)による○○社へのインタビュー」.

8. インターネット

インターネット情報を使用する場合は、URLを明示する。アクセス日を記載することが望ましい。

9. 上記に明記した以外の文献(内部資料や学位論文などの未刊行物、行政文書、外交文書、法律条文、議事録、配付資料、政府刊行物など)の記載方法については、とくに記載様式を定めず、単行書、論文、新聞・雑誌記事の扱いに準拠しながら、文献の特定に必要な書誌情報・収録情報を過不足なく明記するものとする。

IV 図表

1. 図表にはそれぞれ通し番号を付し、表題をつける。必ず単位、出所を明記する。図表は本文中に挿入するか、本文の末尾にまとめて掲載する。
2. タイトルには、注をつけない。図表全体に関わる注については、(注)で説明する。
3. 空欄や記号などを用いた場合には、その意味を必ず注記する。
4. 掲載時にモノクロもしくはグレースケールになることを念頭に作成すること。